

ふれあい通信



2022

1月号

障がいがある方とそのご家族の地域生活を支えます 相談支援制度

私たちがサポート
しています!



たまフレ!が相談支援事業を行う理由

就労移行支援「たまフレ!」は、障がいがある方とそのご家族を支援する相談支援事業を行っています。障がいがある方の生活を支える福祉サービスは種類が多くあり複雑です。その複雑なサービスをうまく活用してもらうためのお手伝いをしています。

今回の特集では相談支援制度の基本について取り上げます。



障がいがある方を支えるサービス 相談支援制度

障がいがある方の生活を支える福祉サービスは種類が多くあり複雑です。
その複雑なサービスをうまく活用してもらうためのお手伝いをするのが相談支援です。



文・たまフレ! 所長 やまぐち 山口 りゅう 竜

3 種類の相談支援事業所

① 一般相談支援事業所

「基本相談支援」と「地域相談支援（地域移行支援／地域定着支援）」を行い、地域生活に関する総合的な支援を行います。

基本相談支援
+
地域相談支援

相談支援を提供する事業所は3種類あり、相談支援の種類が異なります。

② 特定相談支援事業所

「基本相談支援」と「計画相談支援（サービス利用支援／継続サービス利用支援）」を行います。

基本相談支援
+
計画相談支援

③ 障害児相談支援事業所

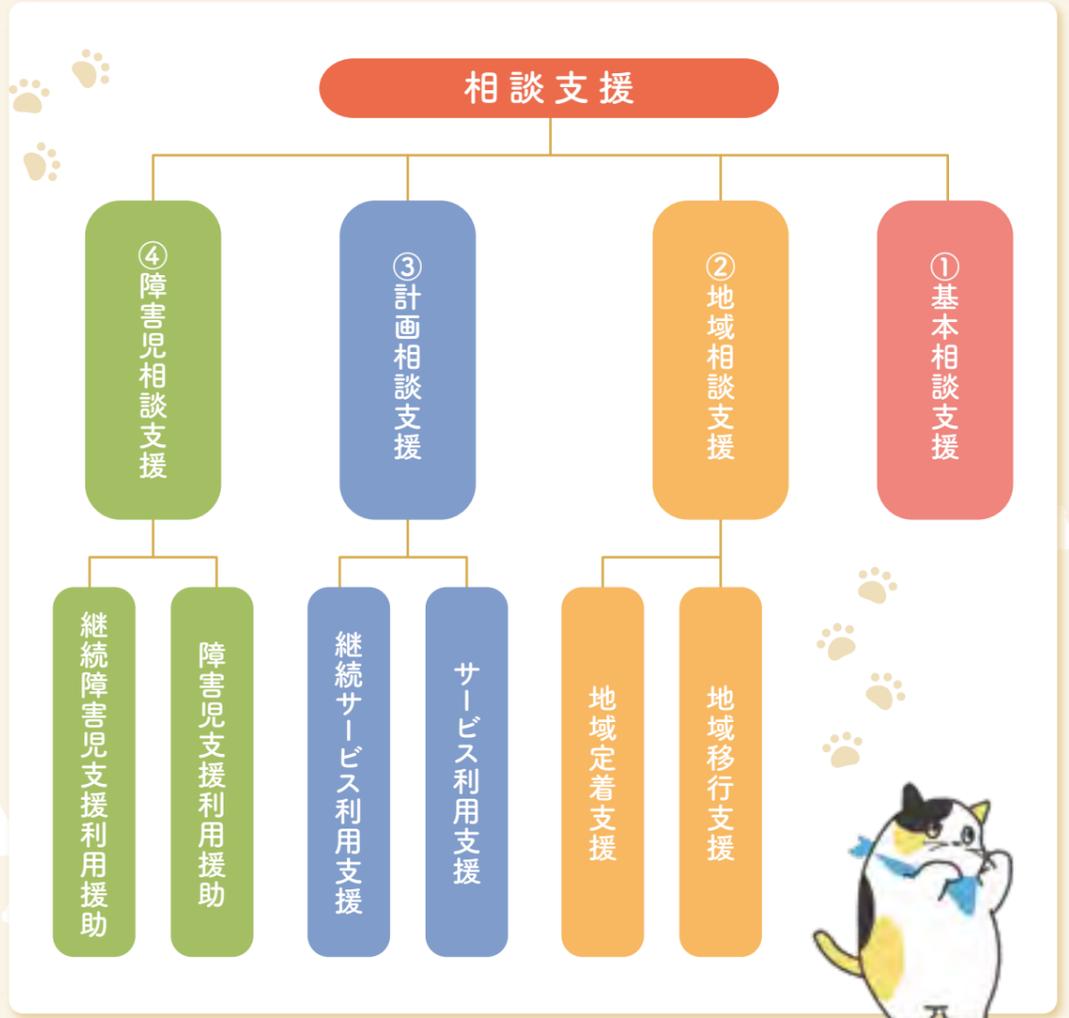
市町村が指定する相談支援事業所です。「障害児支援利用援助」「継続障害児支援利用援助」を行います。

障害児支援
利用援助
+
継続障害児支援
利用援助

たまフレ!は
この事業所に
当たります。

4 種類の相談支援

相談支援は4種類あり、ご利用者からの相談内容によって分けられます。



① 基本相談支援

障害者福祉サービスに関するさまざまな相談に応じます。障がいがある方やそのご家族からの相談内容に対して、必要な情報提供や助言を行います。「地域相談支援」「計画相談支援」「障害児相談支援」につなぐ相談支援全体の起点となります。

② 地域相談支援

障がいがある方が、地域で独立して生活するための相談に応じます。さらに「地域移行支援」「地域定着支援」の2つに分けられます。「地域移行支援」は、これまで生活してきた施設や病院などを出て、自立した地域生活を目指す人を支援します。「地域定着支援」は、すでに自立した地域生活を送る方が、施設や病院に再入所・再入院することなく、地域で暮らし続けるための支援を行います。

③ 計画相談支援

障害者福祉サービスの利用にまつわる相談に応じます。さらに「サービス利用支援」「継続サービス利用支援」の2つに分けられます。「サービス利用支援」は、一人ひとりの悩み・困りごとに応える障害者福祉サービスの利用を支援します。面談やアセスメントを通してサービスの利用に必要な「サービス等利用計画」の作成やサービスを提供する事業者との連絡などを行います。「継続サービス利用支援」は、すでに利用しているサービスの見直しを支援します。定期的なサービスの利用状況のヒアリングや「サービス等利用計画」を見直すモニタリングを行い、結果をもとに関係機関を集めた会議を実施し、サービス利用の更新や「サービス等利用計画」の見直しを行います。

④ 障害児相談支援

障害児（満18歳に満たない障がいがある方）の児童発達支援・放課後等デイサービスなどの障害児通所支援を利用する際の相談に応じます。障害児通所サービスを案内する「障害児支援利用援助」、利用している障害児通所サービスが適切か見直す「継続障害児支援利用援助」の2つに分けられます。



看護部長
さとう なおこ
佐藤 奈緒子

私達は同じ体勢で長時間過ごしていると、圧がかかっているところが痛くなり自然に体勢を変えています。しかし、認知症や特殊疾患がある高齢者は体勢を変えることが少なくなり、褥瘡が発生しやすい状態にあります。今回は褥瘡ケアについてご紹介します。

正しく学ぼう 褥瘡ケア

褥瘡ができる要因

褥瘡が発生する要因として次の2つが挙げられます。

① 個的要因

日常生活自立度が低い、病的骨突出がある、関節拘縮がある、栄養状態が悪い、浮腫がある、多汗である、尿や便の失禁がある など

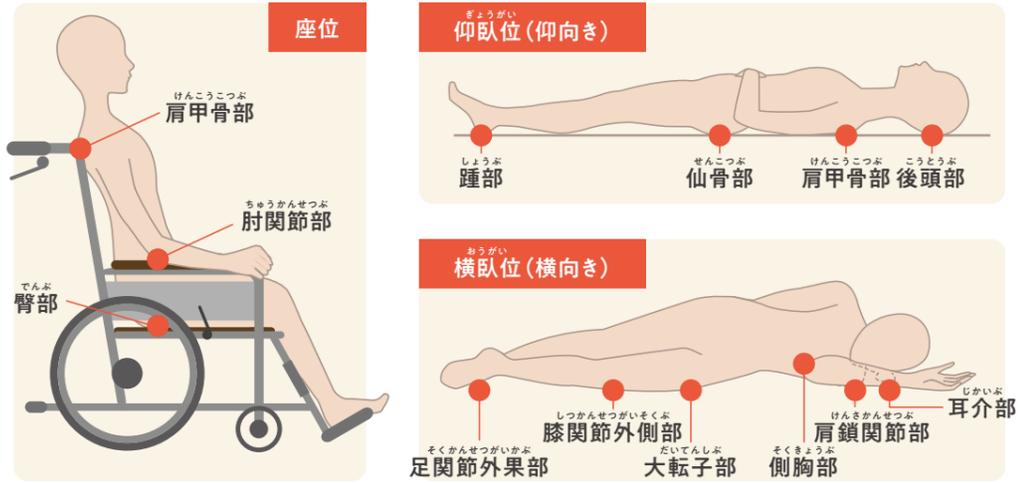
② 環境・ケア要因

体位変換が困難、耐圧分散用具を使用していない、頭側挙上・下肢挙上ができていない、座位保持ができていない、スキンケアができていない、栄養補給が足りていない、リハビリテーションの不足、介護力が低い など

これらに患者さんの特殊疾患や終末期などの要素が加わり、体の一部に持続的な圧迫がかかると血流障害が起こり、虚血状態となって皮膚の組織が壊死して褥瘡が発生してしまいます。

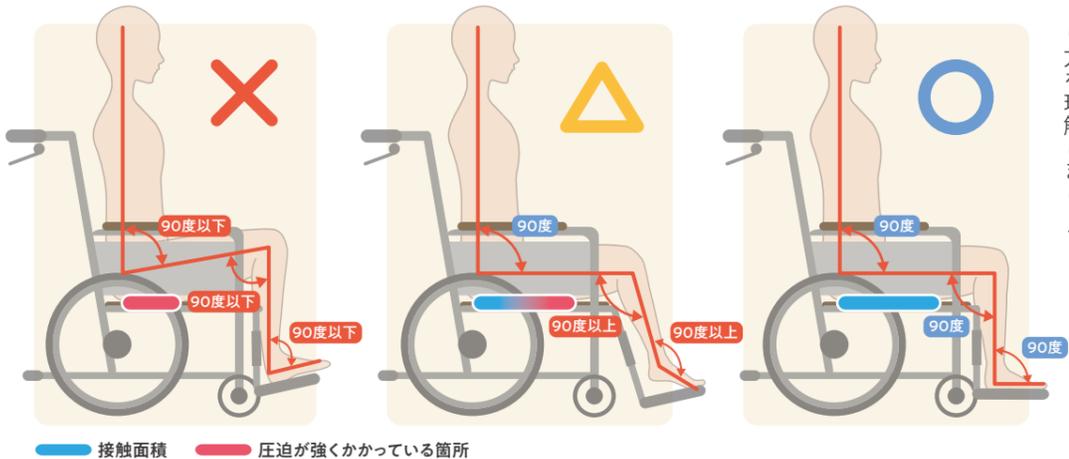
褥瘡ができやすい部位

体圧がかかりやすい部位です。体位変換をして褥瘡を防ぎましょう。



褥瘡を防ぐ車いすの座り方

体圧が部分的にかからない車いすの座り方を理解しましょう。



相談支援制度

たまふれあいグループの事業の一つである就労移行支援「たまフレ!」。たまふれあいグループは、在宅医療に特化したイメージを持たれていて「なぜ障害者福祉サービスも行っているんだろう」と感じている方がいらっしゃるかもしれません。たまフレ!が相談支援事業を行う理由は、この事業が「障害者福祉サービスのケアマネジャー業務」であると捉えているからです。

障害者福祉サービスを利用するためには「サービス等利用計画」の作成が必要となります。この計画は、ケアマネジャーが作るケアプランにとても似ています。この計画なくして障害者福祉サービスは提供できません。福祉サービスを受けたい方の希望を、ケアマネジャーに代わる相談支援専門員がしっかりと汲み取り計画を立てることがとても重要になります。

ケアマネジャーはケアプランに記載された目標が達成できるように調整を行います。相談支援専門員も「サービス等利用計画」に記載された目標が達成できるように調整を行うことを役割としています。このように、ケアマネジャーと相談支援専門員の仕事には共通点が多くあるのです。

現在、たまフレ!では160人以上の方から計画の相談を受け、サービスの調整を行っています。

たまフレ!が 相談支援事業を 行う理由



10月から 障害者相談支援センターが 地区担当制になりました

相談支援体制のさらなる充実を図るため、2021年10月から障害者相談支援センター（一般相談支援事業所）は地区担当となり、体制を再編・整備しています。地域型センターは各区に3〜4カ所、基幹型センターは川崎市内に3カ所設置されています。

地域型センターについて

地区担当制を導入することにより相談窓口を明確化し、地域の関係機関とのネットワークづくりなどを進めます。また区ごとの人口や障がい者数などを考慮し、川崎区と中原区にセンターを1カ所ずつ増設し、体制の強化を図ります。

基幹型センターについて

複数区担当制とし、南部（川崎区・幸区）、中部（中原区・高津区・宮前区）、北部（多摩区・麻生区）の3カ所体制に再編を行い、地域の相談支援機関等に対する後方支援や広域的な調整、地域移行の取り組みなど、基幹型固有の業務に特化した体制を整備していきます。

たまふれあいグループ サービスの空き状況 (2022年1月1日現在)

記号の見方 ◎十分空きあり ○空きあり △残りわずか ▲要相談(待機者少ない) ×空きなし

訪問診療	訪問看護	訪問リハビリ			居宅介護支援事業所	たまふれあいの家			たまフレ!			
		PT	OT	ST		デイサービス	看多機	グループホーム 棋形	グループホーム 登戸新町	障害者計画相談支援	障害者就労継続支援B型	障害者就労移行支援
◎	△	○	○	◎	◎	◎	△	△	△	◎	◎	○

多様な症状・医療処置対応

胃・腸腎ろう／経鼻胃管／気管切開／喀痰吸引／TPN管理／バルン・ストマ／重度褥瘡／呼吸器管理 ほか

地域相談室直通電話番号

044-931-0220

ご相談・お問い合わせ
いつでもお待ち
しております



ポイントを押さえて ササッと完了！ とろみ付け



管理栄養士 内村 三幸

とろみ付けにおいて「粉っぽい」「ダマができる」「希望のとろみ具合にならない」「作る人によってとろみ具合が違う」…このような悩みを耳にすることが多々あります。そこで今回は失敗しないとろみの付け方のポイントをご紹介します。

ポイント4 とろみ剤を追加しない
とろみがゆるかったからと、とろみ剤を追加するのはダメになるので避けましょう。とろみを濃くしたい場合は同じ液体で濃いめのとろみを別で作成して、それを少しずつ混ぜながら調整しましょう。

ポイント3 「2度混ぜ」を行う
とろみ剤を加えてかき混ぜたあと、5〜10分ほど静置してから再度30秒ほど全体をかき混ぜます。静置した後にかき混ぜると急にとろみがついてきます。



ポイント2 きちんと混ぜる
とろみ剤を加えて30秒ほど、よくかき混ぜます。5回ほどかき混ぜただけで提供する場面がよく見られますが、とろみは瞬間では付かないので、コップの下にドロドロになったものがたまってしまう、とろみ付けの意味がなくなってしまう、しっかりと混ぜましょう。

ポイント1 使用量を決める
病院で使用量の指示があれば従ってください。指示がない場合は、製品パッケージを参考にしてください。毎回計量するのは面倒なので、「このコップ1杯は150mlだから」とろみ剤はスプーン〇杯加える」と決めて簡単にです。



とろみ付け4つのポイント

褥瘡を防ぐキーワード 「圧力」「摩擦」「ずれ」

体圧分散

- 体格に合った車いすを選択する
 - 座面クッションを使用する
 - シーティング※する
 - アームサポートやフットサポートを調整する
- ※シーティング：椅子や車いすで長時間生活する人に座位姿勢に関する評価と対応を行うこと

摩擦・ずれによる皮膚の保護

- 骨突出部を保護するためにフィルムを貼付する
- 履き口のゆるい「もこもこソックス」を履く
- 乾燥してガサガサになると摩擦係数が高くなり、ずれが起こりやすくなるためスキンケアで乾燥を防ぐ

浮腫のある皮膚の保護

- 浮腫のある皮膚は表面が乾燥しているため、一度損傷すると治癒遅延を起こします。そこで次を行います。
- ベッド柵にカバーを付ける
- ゆるいストッキングを履く
- アームカバーを付ける



褥瘡を発生させないためには介護者が「圧力」「摩擦」「ずれ」を理解することが大切です。

多汗による皮膚の保護

- 汗で皮膚が浸軟※することで皮膚損傷が起こりやすくなります。そこで次を行います。
 - 吸水性の高い寝衣を着る
 - シーツを吸水性や熱放散性の高い綿や麻にする
- ※浸軟：皮膚がふやけた状態になること

尿や便の失禁による皮膚の保護

- こまめにおむつ交換をする
- 皮膚保護剤を使用する

褥瘡は数時間でできてしまい、一度できると完全に治るまで1〜2年が必要になってまいります。自宅でのケアは病院と比べて、患者さんが栄養を十分に取れなかったり、適切な処置を毎日きちんと行えなかったりと、褥瘡ケアに困難を要するケースが多々あります。在宅看護に関わる私達は、そんな在宅介護の限界をきちんと理解しているからこそ、褥瘡を防ぐことができると思います。在宅介護でお困りごとがございましたら、お気軽にお問い合わせください。



作業療法士 成田 淳之介

運動しているのに 筋肉が落ちる!?

訪問リハの
リレコラム
vol.3

世間ではタンパク質を多く含んだ食品がブームになり、以前よりダイエットやエクササイズへの関心が高まっているように感じます。一方、介護業界では「リハビリテーション栄養」という言葉があるように「適切な栄養管理なくして運動は行えない」という考えが主流となっています。ある研究報告では、栄養管理単独では筋組織を改善するのは難しく、必要な栄養素が不足している状態では、運動療法を行っても効果は低いといわれています。また、サルコペニア※状態の高齢者に対して栄養管理をせずに運動を行うと、逆に筋肉が分解されて病態を悪化させてしまうことが近年明らかになってきました。在宅生活を送っている高齢の方は、食生活が偏りやすい傾向にあり、運動に必要な栄養素が不足して身体機能が低下してしまう方もいらっしゃいます。そのような方も、適切な運動と栄養を提供すれば身体機能は改善していきます。元気がない方こそ、運動と栄養のバランスをいま一度見つけ直すことをおすすめします。



※サルコペニア：加齢が原因による筋肉量の減少や筋力の低下のこと

いろいろなとろみ付けの紹介

ベッド上でできる！ 楽ちんとろみ付け

ペットボトルにとろみ剤を加え、膝の上またはテーブルの上で30回ほど転がし、一晩冷蔵庫に入れてできあがり。かき混ぜる動作ができない方でも、ベッド上でもできます。ペットボトルの口に投入しやすいスティックタイプのとろみ剤がおすすめです。



ミキサーで一気に！ 時短とろみ付け

100円ショップなどで販売されているミルクフォーマーやミニミキサーを利用すると素早くかき混ぜることができ、とろみ付けを時短できます。しかし泡立ってしまうと物性が変わってしまうので、攪拌部をしっかりと液に沈めて空気が混ざらないようにしましょう。



シュワシュワ感を維持！

炭酸飲料のとろみ付け

ペットボトルの炭酸飲料にとろみ剤を加え、ふたを閉めて10秒強く振り、ふた部分をもって弧を描くように15秒回して泡を落ち着かせ、一晩冷蔵庫に入れたらできあがり。冷却が短いとあふれだすことがあるので、一晩しっかり冷やしましょう。炭酸の刺激は、少量であれば胃が刺激され食欲増進効果も期待できるといわれています。ぜひお試しください。



とろみ剤は「食品の味を邪魔しない無味無臭」のものが多いといいますが、独特の食感に抵抗を感じる方もいらっしゃいます。水や緑茶はとろみの独特の食感が出やすいので、ほんのり味の付いた水や紅茶、スポーツ飲料などをお試しください。

全力相談員 〱 フジタによるスタッフ紹介

フジタがゆく!

ふじた あん
地域相談室 相談員 藤田 杏



こんにちは! 相談員のフジタです♡

今回は、地域相談室とも関わりの深い地域マネジメント部に新たに加わった木村にインタビューです!

山形生まれの北海道育ちという木村。大学は経済学部に進学し、ツーリングサークルに所属。大型二輪車で東京から北海道まで旅することもあったそうですよ!

そんな木村は、医療従事者専門の人材紹介会社に10年以上勤務、医師の転職支援や医療機関の採用支援の業務に携わってきたという経歴の持ち主です。前職の業務経験から、高齢者医療、小児医療、精神医療に興味を持ち、採用関連だけではなく医療法人の運営全般へ貢献したいという思いから、たまふれあいグループに入職したとのこと。

変化の激しい時代だからこそ、学び変化し続けることを大切にしている木村は、学びの重要性を再認識し、医療経営士2級や簿記2級を取得。「今後も医療介護の現場についてのインプットを進めながら、必要とされるスキルの取得に努めたい」と語ります。

敏腕な木村も、家に帰れば1児のパパ。家族で仙台や静岡までキャンプに行くそうですよ! 漫画や映画、料理など多彩な趣味をお持ちな木村の紹介でした!

インタビューした人

時代の変化に沿ってスキルを磨き続ける
たまふれあいグループ地域マネジメント部

きむら じゅんいち

木村 純一さん

ご利用者のご相談やその他法人全体へのご意見など、どのようなことでも遠慮なくお知らせください。窓口としてニーズに応えられるように努めさせていただきます。



学びを大切に
頑張ります。



家族でキャンプに
行くことが多いです。



自然のあるところで
リフレッシュ!!



フジタの部屋



あけましておめでとうございます♪
入職した時には22歳だったフジタも、今年で27歳になりますΣ(・ω・ノ)!
2022年もどうぞよろしくお願いいたします!!

東北人フジタのつぶやき

今年も元気いっぱい いぐすか!

訳: いぐすか=いきますか



仙台市交通局のICカード乗車券は「icsca(イクスカ)」といい、仙台弁の「いぐすか」を由来としています!



044-931-0220

〒214-0014 神奈川県川崎市多摩区登戸1763
ライフガーデン向ヶ丘2F

ふれあい通信は、地域相談室のメンバーがつくる「地域とつながる」会報誌です